

株式会社フクハラ（神奈川県）

～ 感動をもたらす省エネ、環境関連機器の創出を知財でデザインする ～

1. 環境問題の解決のために

株式会社フクハラは、昭和46年に設立以来、圧縮空気からの凝結水に溶け込む油の分離技術をコアに、「エアーコンプレッサ・ドレン抜き(空圧機器及び空気配管などに設置する水抜き)の総合コンサルタント」として発展してきた。現在では、圧搾空気中に含まれる不純物の分離技術から派生し、各種エアーコンプレッサ用ドレン自動排水器、ドレン処理装置、除菌フィルター、芳香発生装置など「省エネ・環境関連機器」を開発製造している。また、ドレン水中の不純物を濾過するフィルターカラムを現場から回収して再生するビジネスモデルも展開している。

近年、進む環境破壊に対して将来を心配する声が高まっており、環境問題は喫緊の最重要課題となっている。「モノづくり」の分野においても、環境基準をクリアすること、環境に優しい製品の製造を第一に考えなくてはならない状況であり、エアーコンプレッサ技術に関しても、排出されるドレン水の処理が問題となっていた。同社は、いち早く時代の変化やニーズをキャッチして、その問題に取り組み、研究開発を重ね製品化を行い、ドレン処理装置、除菌フィルター、芳香発生装置といった環境基準対応型のオリジナル製品を生み出してきた。

今後も、「感動をもたらす省エネ、環境関連機器の創出を知財でデザインする」を合言葉に、ISO14000を取得するために設置が必須となりつつあるドレン処理装置のような環境対策商品を研究開発することで独自の商品づくりに励み、社会に貢献するべく、同社はより一層の努力を重ねている。

2. 知財管理はすべて社内で

知財管理は社長室が担当しており、社内の知財戦略を取りまとめるとともに、特許に関して明細書の作成等、特許庁に対するすべての手続きを自社のみで行っている。創業当時は、社長自らも明細書を2～3件作成していたことから、知財に関する意識も高く、特許出願増によって出願費用が増加することがあってもこれを抑制することはない。

従前から、毎朝15分程度、社長を筆頭に販売部門、技術部門、総務部門の17名で「朝礼勉強会」を行っている。開発提案、開発テーマの説明、新製品の説明、顧客の要望などについてその日の当番の社員が発表し、これが発明の発掘やブラッシュアップにつながっている。

既存マーケットに上市している自社の現有製品に関しては、すぐに製品に反映させるということではなくても、次期製品のために使用可能な技術を蓄積するという考え方で特許出願する一方、今後、市場を開拓していく新分野の製品に関しては、セールスポイントになり得るといった観点で積極的に出願を心掛けている。また、特許情報活

用の面では、技術部門が中心となって他社の先行技術を含めた技術動向をチェックすることにより特許マップを作成し、自社の現有製品の技術的不備、同業他社特許との類似点等を探り、自社のセールスポイント、次の開発ポイント等の探索している。

早くから環境問題に取り組んだことと、早くから知的財産権を重視したことが今日の事業発展につながっている。今後も「環境」と「知財」を旗印に研究開発を推進していく。

【保有権利に基づく製品例】



ドレン処理装置



高純度窒素ガス発生装置

<会社概要>

名称及び代表者名	株式会社フクハラ 代表取締役社長 福原 廣
本社所在地	神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西1-15-15
創業	1971（昭和46）年
資本金	1,500万円
従業員数	75名
主要製品	各種エアーコンプレッサ用ドレン自動排水器、ドレン処理装置、除菌フィルター、芳香発生装置、殺菌装置、高純度窒素ガス発生装置
電話	045-363-7373
URL	http://www.fukuhara-net.co.jp/